

点検・評価

現状においては、生涯教育への対応としては、一般市民の参加可能な公開講座を年2回行っており、4学科で順次、時宜に適したテーマを設定して実施している。なお、公開講座の実施状況などについての詳細は「Ⅷ 社会貢献」の項で述べる。

将来の改善・改革に向けた方策

今後とも、このような生涯学習に対応した一般市民のための教育活動は続けていくことが望ましい。例えば、情報文化学科では、マルチメディアに関する設備を活用した公開講座など、それぞれの学科の特徴を活かした講座も検討する価値がある。

また、従来の講義型ではない参加型の実習を含めた講座のあり方を模索しており、壮年層以下の若手を想定受講者とするような工夫なども議論している。

11 正課外教育

(1) 正課外教育の充実度

現状の説明

通称「スコーラ」というコンピュータ、会計、英語に関する正課外教育制度を設けてきた。

点検・評価

スコーラを通じて各種資格試験への指導をもくろみとしているが、参加者が少ないこと、また資格試験合格者についての実態把握が不十分なことなど多くの問題を抱えている。

スコーラ参加者と資格試験合格実績について実情を把握し、廃止を含めた抜本的な見直しが必要である。

将来の改善・改革に向けた方策

資格試験対策が大学として必要かどうかについて議論を進め、平成17年度のカリキュラム改正に合わせて対策を実現していく予定である。

B 教育方法とその改善

1 教育効果の測定

(1) 教育上の効果を測定するための方法の適切性

現状の説明

教育効果を測定することは容易ではなく、多様な測定尺度を考えることができよう。また、それらの尺度が互いに背反する場合もあり得よう。しかしながら、何らかの測定尺度を複数設定して、測定基準を教員だけでなく学生にも公開しておくことは、教育の質の継続的維持のためには必要であると考えられる。